

大牟田市総合体育館建設に係る 基礎調査報告書 概要版

目次

1. 調査の目的と方法	・・・	1
2. 市民体育館を取り巻く環境の整理 一上位計画、関連計画	・・・	1
3. 体育館の現況と利用状況	・・・	2
4. 現在の体育館の問題点と整備課題	・・・	3
5. 新体育館の整備方針	・・・	4
6. 新体育館建設位置の検討	・・・	6
7. 新体育館の施設規模、機能	・・・	11
8. 新体育館建設計画案の作成	・・・	13
9. コスト計画	・・・	14
10. 検討課題の整理	・・・	14

平成27年3月

大牟田市

1. 調査の目的と方法

大牟田市民体育館は、昭和49年9月に開設され、市民のスポーツ活動や健康推進の拠点施設として40年を超える年月にわたって利用されてきました。しかし建物の老朽化やバリアフリー対策の遅れ、耐震化の問題などが指摘され、建替を検討する時期になってきました。

そこで、市民体育館の建替整備を検討するに当たり、まず基本的な事項を整理し、総合体育館建設計画の具体的な方向性を示す必要があると考えられます。

当市における体育館の位置付けや、現在の体育館の状況や立地状況等から導きだされ課題、施設の現況や利用者等の要望から出てくる課題などを整理し、今後の社会状況などを踏まえながら、新体育館の建設の目標となる姿や整備の方針を検討していきます。

2. 市民体育館を取り巻く環境の整理 一上位計画、関連計画

(1) 大牟田市総合計画

市民がいつでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツに親しむことができるよう、「スポーツ振興計画」に基づき、スポーツの機会づくり、支援の仕組みづくり、楽しめる環境づくりを進めるとしてありますが、市民体育館の建設・改修等の直接的な記載は「大牟田市総合計画2006～2015後期基本計画」の中ではありません。市民体育館の表記は後期基本計画の第2期実施計画ではじめて平成26年度事業として今回の基礎調査が掲げられています。

(2) 大牟田市スポーツ振興計画

スポーツ都市宣言の趣旨の実現を目指し、理念を「**スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市づくり おおむた**」とします。

市民体育館としては、「基本施策3.スポーツがしやすい環境づくり」の中で「市民体育館をはじめとする老朽施設についての計画的改修や建替え等について、財政状況を勘案しながら誰でも使いやすい安全で快適な施設の整備に努めます」と表記されています。

(3) 大牟田市地域防災計画

平成26年2月に定められた「大牟田市地域防災計画」の中で、大牟田市民体育館は「指定避難所」として、位置付けられています。今後、建替整備される体育館にも「指定避難所」としての役割は必要となります。

(4) 大牟田市公共施設維持管理計画

体育館などで老朽化が進行しており、全ての施設の更新を行うことは困難です。そのため、周辺自治体との機能分担などを踏まえ、更新を行う施設と行わない施設の選別を行い、更新を行わない施設については、廃止等も含めて検討します。更新を行う施設においても、現在と同規模の施設への更新は、財政負担上困難であることから、将来の人口減少を見据えた規模の縮小、他施設との統合を検討します。

3. 体育館の現況と利用状況

(1) 体育館の現況

市民体育館	所在地	大牟田市宝坂町2丁目86番地	施設概要 アリーナ(1,786㎡)、バスケットボール(2面) バレーボール(3面)、バドミントン(12面) 柔道場、剣道場、卓球場、トレーニングルーム 固定観覧席(924席)、更衣室、シャワー室等
	構造	鉄筋コンクリート3階建 競技場屋根鉄骨造	
	敷地面積	5,049.12㎡	
	建物延面積	体育館(5,944.18㎡)、機械室(225㎡) 別棟倉庫室(168㎡)、合計 6,337㎡	
	開館	昭和49年9月8日 (平成26年9月で築40年経過)	

第二市民体育館	所在地	福岡県大牟田市黄金町1丁目26番地	施設概要 アリーナ(1,216㎡)、バスケットボール(2面) バレーボール(2面)、バドミントン(6面) 柔道場、剣道場、更衣室、シャワー室、器具庫等
	構造	鉄筋コンクリート2階建(一部3階建)	
	敷地面積	延命庁舎の一部	
	建物延面積	2,194㎡	
	開館	旧大牟田南高校の体育館	



市民体育館



第二市民体育館

(2) 体育館の利用状況

ここ15年の市民体育館の利用者は、年間120～140千人で推移しており、利用件数も12,000～15,000件とほぼ同じ値で大きな変化は見られません。利用形態は定期使用が最も多く、次に専用使用であり、個人使用は少ないと言えます。

スポーツ教室の参加者もほぼ年間1,000人程度と固定化しています。また、スポーツ大会についてもバスケットボール、バレーボール、バドミントンなどが開かれており、市内及び広域の大会がほぼ年間を通して行われています。第二市民体育館を同時に使用している大会も多く、第二市民体育館の利用度も高いと言えます。

4. 現在の体育館の問題点と整備課題

体育館の現状や、スポーツ振興計画等の策定調査のアンケートなどで、市民から寄せられた問題点を整理し、課題をまとめます。

問題点

- 「スポーツ都市宣言都市」のイメージの割に、市民には施設が貧弱とされている
- 耐震上の安全性が確保されていない
- 空調設備がない
- 広域的な大会やプロスポーツイベントを運営する場所（会議室、受付他）の不足
- ロビーなどが狭小
- トイレが古い、更衣室が狭い
- バリアフリーでない、高齢者・障がい者に使いづらい
- スポーツ設備、用具の不足、老朽化
- トレーニングルームなどが狭い
- 利用者が多く施設の予約が取りにくい

整備課題

- **市民のスポーツ振興や健康体カづくりの拠点**
新しいスポーツのスタイルに対応した施設、スポーツ情報提供、スポーツ団体の活動の支援、健康・体カづくり・スポーツ相談などの整備、充実
- **生涯スポーツへの対応**
高齢者・障がい者が安心・安全にスポーツができる環境の整備
- **総合体育館として見るスポーツ、見せるスポーツへの対応**
市民に夢を与えるプロスポーツが行える施設
- **スポーツだけではなく、多様なイベントへの対応**
快適な多用途空間の整備、周辺施設との連携の確保
- **災害時の大規模収容可能な避難施設**
耐震性の確保や備蓄機能の強化

5. 新体育館の整備方針

(1) 新体育館の位置づけと役割

「スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市(まち)づくり おおむた」を基本理念に、大牟田市のスポーツ都市宣言を受けて、「誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり」「活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり」「スポーツがしやすい環境づくり」という施策を実現するために新体育館は重要な役割を担うこととなります。

新体育館は、市民が望むスポーツ環境を整備し、市民のスポーツ活動を支え、スポーツ振興を促進する施設であり、市民のスポーツ活動を支えていくための中核を担う施設と位置付けられます。

新体育館の役割

- 市民の健康・体力づくりに資する日頃のスポーツ活動の場を提供する役割
- 市民が競技能力を発揮できる大会や広域的な規模の大会を開催したり、トップレベルの大会などを開催できる場を提供する役割
- 体育館でスポーツする人だけではなく、スポーツをする人や応援する人を支援し、スポーツコミュニティを養う場の役割
- 文化行事や公共活動などの市民生活に必要な事業に対応する役割
- 災害時の指定避難所として、市民の安心・安全を守る役割



(2) 新体育館に求められる役割と必要な施設

	1 日頃のスポーツ活動	2 スポーツ大会の会場	3 スポーツをみる場	4 スポーツを支える場	5 文化行事の場	6 災害時の避難場所	7 地球や人にやさしい
1. 体育施設部門							
①メインアリーナ	○	○	○		○	○	
メインアリーナ付帯の観覧席		●	●	○	○		
メインアリーナ付帯のランニングコース	○	○					
②サブアリーナ		●	●			○	
③フィットネススタジオ	○						
④トレーニングルーム	○						
⑤レクレーションルーム（親子スタジオ）	○						●
2. 会議・研修部門							
⑥会議室・研修室	○	○		○	○	○	
⑦メインアリーナに隣接した会議室・関係者控え室		●	●				
3. 利用者サービスに係る付帯施設部門							
⑧談話・交流・休憩スペース、広いロビー	○	○	●	●	○	○	
⑨スポーツ情報コーナー	○	○	●	●	○		
⑩更衣室・シャワー室	○	○	○	○	○		●
⑪トイレ	○	○	○	○	○	○	●
⑫授乳室						○	●
4. 事務・管理に係る付帯施設部門							
⑬事務・管理室	○	○	○	○	○		
⑭スポーツ相談室	○			○			
⑮医務室・放送室		●	●				
⑯機械室、器具庫	○	○	○		○		
5. その他							
⑰防災備蓄倉庫、非常用自家発電設備、貯水施設等の防災関連施設						●	
6. 駐車場・駐輪場	○	●	●	○	○	●	

● 特に設置が必要と思われる

○ 設置が必要

6. 新体育館建設位置の検討

新体育館の位置づけや求められる機能を踏まえ、新体育館の建設位置について、改めて他の候補地を選定して様々な視点により判定を行って、最適な建設地を選出します。

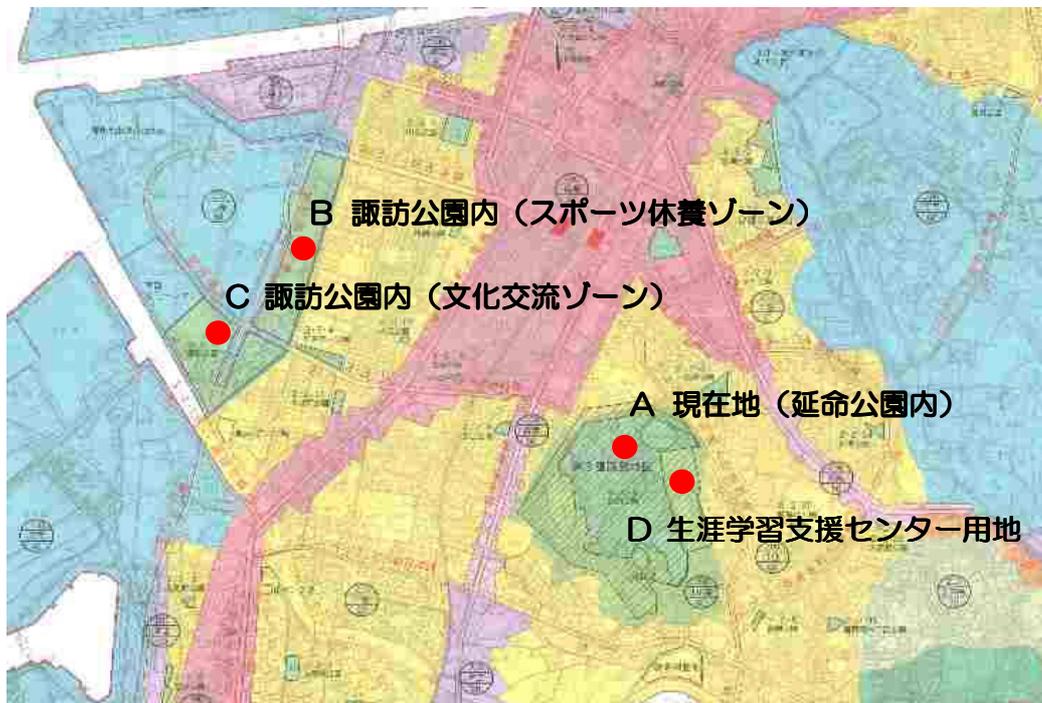
(1) 候補地の選定

候補地の条件は、下記の条件を満たすものとします。

- 敷地規模が 2ha 程度は確保できる
- 財政難の折、新規の用地取得は不可能であり、市有地とする
- 大規模な造成工事や付帯工事がない
- 交通の利便性が良い

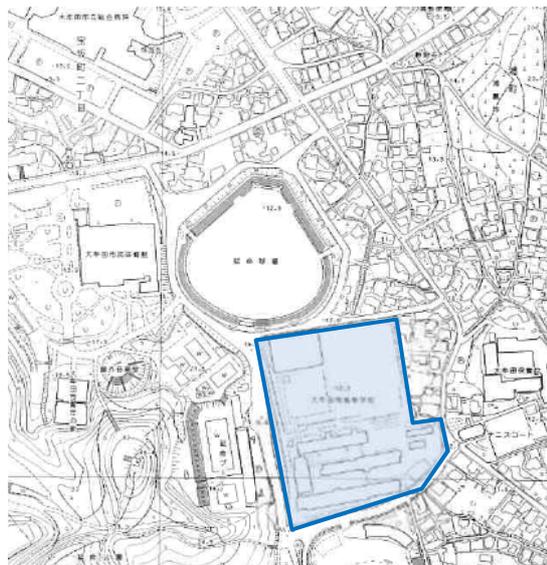
下記の 4 か所を候補地として選び、比較検討します。

A	現在地（延命公園内）
B	諏訪公園内（スポーツ休養ゾーン）
C	諏訪公園内（文化交流ゾーン）
D	生涯学習支援センター用地（旧大牟田南高校跡地）



候補地の位置図

(2) 候補地の概要

<p>A 現在地（延命公園内） 敷地規模 2.8ha 延命公園内にあり延命球場に隣接</p>	<p>B 諏訪公園内（スポーツ休養ゾーン） 敷地規模 1.9ha 諏訪公園内にあり、現在野球広場等で利用</p>
	
<p>C 諏訪公園内（文化交流ゾーン） 敷地規模 1.7ha 現在はイベント広場として利用</p>	<p>D 生涯学習支援センター用地 敷地規模 2.4ha 旧大牟田南高校跡地、第二市民体育館、弓道場等あり</p>
	

(3) 候補地の評価と判定

候補地	A	B	C	D
	現在地 (延命公園内)	諏訪公園内 (スポーツ休養ゾ ン)	諏訪公園内 (文化交流ゾーン)	生涯学習支援センター 用地(旧大牟田南高校 跡地)
敷地規模 (体育館建 設用部分)	○ 2.8ha	○ 1.9ha	○ 1.7ha	○ 2.4ha
公共交通機 関の利便性	○ バスの便もよく、JR大牟 田駅から徒歩圏内であ る。	○ JR大牟田駅から徒歩では 30分くらいかかるが、近 接してバス停がある。	○ JR大牟田駅から徒歩では 30分くらいかかるが、近 接してバス停がある。	△ 延命公園の東側であるが バス停からは少し遠い。
道路 アクセス	△ 国道208号から少し入っ ているが、比較的わかり やすい位置にある。しか し、ピーク時には渋滞が 発生している。	△ 有明海沿岸道路のICの横 であり広域的なアクセス は非常に良い。但し、接 道する道路が一方通行道 路であり出入口がわかり づらい。	○ 有明海沿岸道路のICの横 であり広域的なアクセス は非常に良い。主要市道 に接しているため出入口 はわかりやすい。	× 少し裏となり、わかりに くい場所となる。アクセ ス道路が悪く、現状より 渋滞がひどくなる可能 性が高い。
防災上の 安全性	○ 高台にあり地盤も安定し ており、周りの建物の密 集度も低く、防災上の安 全性は高い。	△ 埋立地であるが、地震に よる液状化の可能性は低 い。ただし、上空に高圧 線があり、避難上の問題 がある。	○ 埋立地であるが、地震に よる液状化の可能性は低 く、高圧線からも離れて おり、周辺も広く開放さ れていることから安全性 が高い。	△ 公園に隣接しているが、 東側は密集した住宅街で あり、火災等の危険は考 えられる。
周辺環境 敷地条件	○ 公園内であり、緑地や オープンスペースも多 く、駐車場等の総合的な 活用も可能である。シン ボル性もある。	× 高圧線下で高さ制限 (14m)があり、高い建 物の位置が制限される。 九電の所有地であり、借 地となる。	○ 近接して大規模商業施設 があるため、地域イメ ージはよい。駐車場や広場 等は既存利用が可能で周 辺の公園施設と一体と なった整備ができる。	○ 一部住宅地に接している が他は球場と陸上競技場 であり環境は良い。駐車 場等も相互利用が可能。
総合評価	○ 現在体育館が建設されて おり認知度も高い。他の スポーツ施設との連携や 公共交通の便、公園内に ある環境など、体育館の 建設用地としては適して いる。ただし、交通渋滞 の問題は解消すべき課題 である。	× 公園内にはなるが、高圧 線下、九電からの借地が 必要等、体育館の建設は 困難性があり適さない。 屋外スポーツ施設等の利 用を考慮すべきと思われ る。	◎ 他のスポーツ施設(延命 球場陸上競技場)との連 携は低いが、広場、駐車 場などが整備された公園 内にあり、幹線道路に接 しているなど土地条件、 立地条件は最適である。	× 公園やスポーツ施設に隣 接し、連携には申し分が ないが、総合体育館の建 設用地としては、位置が 悪く、既存施設の予備駐 車施設や練習施設などの 補助的施設として活用す べきであると思われる。

道路アクセスについてみると延命公園(現在地)は、周辺への渋滞の影響が増大する可能性が高く、道路や駐車場など、さらなる整備が必要になると考えられます。立地条件や土地条件からみて、諏訪公園内(文化交流ゾーン)が総合体育館の建設地が最適であると思われれます。

ただし、今の時点で1つに絞ることは避けて、両候補地を前提として計画を進めることとします。

(4) 候補地の選定

前頁の比較により、候補地として現在地（延命公園内）及び諏訪公園内（文化交流ゾーン）が適しているという判定が出ました。

そこで、両候補地について、建設候補地の評価と判定を基本にメリット、デメリットのさらなる精査・検証を行います。

A) 現在地（延命公園内）

延命公園については、現在体育館が建設されており、他の施設との連携や認知度の観点からは候補地としては適していると考えられます。

しかしながら、新たな体育館が建設されるまでの間、既設の体育館の利用を前提として工事を実施しますと、既存施設用地と建設検討用地との間に高低差があることから、配置上の制約が大きく、既設体育館の解体後整備を行う公園等が分断される可能性があり、回遊性という面で課題が残ります。

また、最大のデメリットとしては、既存の体育館周辺は、ゴールデンウィークなど限られた期間ではありますが、集客施設ともいえる延命動物園があり、体育館をはじめ周辺の体育施設で大会が開催されるときには、周辺住民の日常生活に影響を及ぼすほどの渋滞が発生しています。

これらの渋滞を解消するためには、新たな道路や駐車場整備を行わない限り、現状課題を抜本的に解消することができません。

B) 諏訪公園内（文化交流ゾーン）

諏訪公園内（文化交流ゾーン）については、既存駐車場が隣接し、運動広場など柔軟な利用が可能であり、広域的な交通においても、有明海沿岸道路の大牟田インターチェンジに隣接し、候補地としては最適であると考えられます。

既存の市民体育館は、指定避難所として指定されていますが、新体育館についても、大規模災害時に指定避難所として活用されることが想定されます。

大牟田市は、幸いにして災害が少なく、台風の接近時等については、学校や地区公民館等の自主避難所で対応していますが、大規模な地震等が発生した場合は、新たな体育館が指定避難所としての機能を担うこととなります。

諏訪公園内（文化交流ゾーン）は、臨海部に位置し、埋立地であることから、地震による液状化等が懸念されますが、砂等による埋立地は液状化の可能性が高いとされ、諏訪公園用地のようにボタによる埋立地は、液状化の可能性は低いとされています。

また、有明海沿岸道路が隣接し、沿岸道路が耐震化も図られていることから、広域的な移動も確保でき、指定避難所としての機能を確保できるものと考えられます。

しかしながら、諏訪公園用地については、近接して大型ショッピングモールが隣接すること、また、予定地の横に公園駐車場があるものの、現在の公園機能を想定し駐車台数が算定されていること、これらのことから、諏訪公園用地についても、一定の交通並びに駐車場対策を検討する必要があります。

さらには、諏訪公園内（文化交流ゾーン）については、現状においてグランドゴルフ

大会などの利用頻度も高く、代替用地の検討を行う必要があります。

その他、両候補地について、メリット、デメリットをまとめると下表のようになります。

	現在地 (延命公園内)	諏訪公園内 (文化交流ゾーン)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の便が良く、日常的な利用に便利である 地盤が安定しており、指定避難所としては安全が確保できる 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の駐車場が利用でき、運動広場などもあり柔軟な対応ができる 造成費が不要であり、トータルコストは安い 既存体育館と別の場所であり、工事には支障がない 有明海沿岸道路に隣接しているため利便性も良く、広域的な大会も行いやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 建設場所に高低差があり、造成費がかかる トータルコストが若干高くなる 車の進入路が限られるため、イベント時には交通渋滞が発生する(将来解消される可能性も低い) 既存施設を残しての建替となり、配置上の制約が大きく、跡地に整備する公園部分が他の部分から分断される 	<ul style="list-style-type: none"> 埋立地のため基礎工事費(杭等)が割高である 予定地がイベント広場であるため、その機能を代用できるスペースを設ける必要がある

それぞれに一長一短がありますが、道路アクセスについてみると延命公園(現在地)は、周辺への渋滞の影響が増大する可能性が高く、道路や駐車場など、さらなる整備が必要になると考えられます。立地条件や土地条件からみて、諏訪公園内(文化交流ゾーン)が総合体育館の建設地が最適であると思われます。

ただし、今の時点で1つに絞ることは避けて、両候補地について、配置計画や建物イメージの検討を進めることにします。

7. 新体育館の施設規模、機能

(1) 施設規模の検討

同規模都市の事例等より、今回の体育館の規模の検討を行います。他の代替施設が整備されていない状況や、施設の利用状況からみて、基本的には現在の体育館の規模、機能は満たすものとして検討します。

●メインアリーナの規模

メインアリーナは、現在と同じバスケットコートが2面とれるものとし、面積的に既存の1,786㎡以上とします。

サブアリーナを設けない場合、他都市の事例等によるとメインアリーナは比較的広くとられており、バスケットコートを3面設置できる面積を確保します。

●サブアリーナ

他都市の事例を見ても、同規模市においてはほとんどが設置されており、可能であれば設置します。ただし、規模的にはバスケットコート1面程度とします。

●武道場の設置

他都市の事例では、別に設けているケースも見られるが、既存施設にも設置されているため設置します。規模的には現在と同規模程度とします。

●観客席数

基本的には固定席で現況の924席以上を確保します。

●床面積

既存床面積は6,300㎡であり、設置施設内容が現状と同程度としてもゆったりとした廊下、ロビー等の共用部分やエレベーター等の設置、多目的トイレの増設、機械室の増加を考慮して7,000㎡以上は必要になると思われます。他都市の事例を見ても、サブアリーナや武道場を設置していない場合でも、6,000～8,000㎡の例が多く、サブアリーナ、武道場を設けて、固定席1,000席程度の場合は8,000～13,000㎡程度となっています。よって、新体育館の面積規模としては概ね下記とします。

サブアリーナを設けない場合	7,000～8,000㎡程度
---------------	----------------

サブアリーナを設ける場合	9,000～12,000㎡程度
--------------	-----------------

この範囲の中で、施設機能の検討に基づき、施設の面積を決定します。

(2) 諸施設・諸室の規模と施設内容の考え方の要点

部門 (区分)	室名 (施設名)	規模や施設内容の 考え方の要点	概算面積	(参考) 現行施設面積
体育 施設 部門	①メインアリーナ	● 49m×38m(天井高 12.5m確保)、バスケットコート2面、バレーボール3面、バドミントン12面	約 1,900 m ² (通路含む)	・市民体育館 約 1,700 m ² ・第二市民体育館 約 1,200 m ²
		● 観覧席は、現在の市民体育館と同程度規模の固定 1,000 席以上を確保	約 1,100 m ² (固定観覧席・ランニングコース)	約 700 m ² (固定観覧席)
		● ランニングコース(観覧席外側)を設置	約 240 m ²	約 80 m ²
	● アリーナに隣接して控室、放送室、医務室を設置			
	②サブアリーナ	● バスケットボール1面 ● 35m×20m(天井高 12.5m確保)	約 700 m ²	
	③武道場	● 柔道場、剣道場 ● それぞれに倉庫を設けます。	約 530 m ²	約 1,000 m ² 市民体育館512 m ² 第二市民体育館481 m ²
④卓球場	● 多目的に利用できるスペースとします。 ● 卓球台を収容できる倉庫を設けます。	約 400 m ²	約 400 m ²	
⑤トレーニング室 スタジオ	● 防音、音響設備のついたスタジオ	約 450 m ²	約 170 m ²	
⑥キッズルーム	● 幼児の遊びや親子体操ができるスペースを専用室として設けます。 ● 託児室としての利用も検討。	約 90 m ²	約 30 m ²	
会議室 部門	⑦会議室	● 間仕切りによって3室に分けて使用できる会議・研修室(1室:口の字の机配置で36名程度)分割利用可能。	約 140 m ²	約 140 m ²
利用者サービスに係る付帯 施設部門	⑧談話・交流・休憩スペース(廊下・ロビー等も含む)	● 談話・交流・休憩スペースは、廊下・ロビーの一部を利用 ● スポーツ情報コーナー等も設ける	約 2,600 m ²	約 1,700 m ²
	⑨トイレ・更衣室・シャワー室	※ 多機能トイレ(オストメイト対応)も数力所必要	約 520 m ²	約 400 m ²
	⑩授乳室	—	約 20 m ²	
事務・管理に係る付帯 施設部門	⑪事務・管理室	—	約 250 m ²	約 160 m ²
	⑫機械・設備室 器具庫	※ 空調・機械設備、エレベーターなど	約 700 m ²	約 320 m ²
その他	⑬防災備蓄倉庫	—	約 250 m ²	
	⑬非常用自家発電設備を含む 機械・設備室	—	約 100 m ²	
	⑬貯水施設	—		
延床面積 ※貯水施設、駐車場・駐輪場は含まない			約 10,000 m²	約 8,500 m²

※現行施設面積には第二市民体育館も含む

8. 新体育館建設計画案の作成

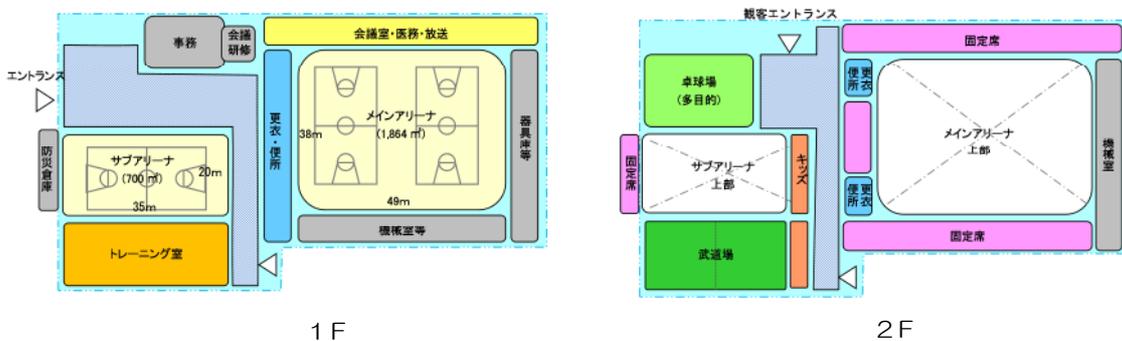
新体育館の計画案については、財政事情の厳しい状況の中で1案に絞ることは現在の段階では難しいと思われます。

新体育館に求められる役割や機能をほぼ満たし、規模的にも理想に近い形の案を検討するとともに、ある程度現実的な視点に立ち、現状の規模を基本に、不足する機能を最低限付加した案も代案として検討します。上記の条件に基づき下記の2案を検討します。

A案

新体育館に求められる役割や機能をほぼ満たし、規模的にも理想に近い形の案

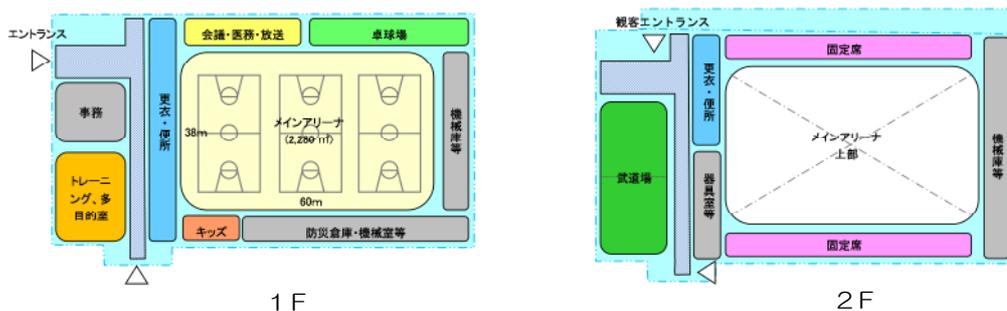
サブアリーナを備え、市民スポーツに加えて広域的かつ国内規模の大会が開催できる施設とします。面積的には、床面積 10,000 m²程度とします。



B案

ある程度現実的な視点に立ち現状の規模を基本に不足する機能を最低限付加した案

サブアリーナは設けず、広域な大会等の開催はあまり考慮せず、市民スポーツを中心とした施設とします。現状と同規模（第二市民体育館も含める）として、7,200 m²程度とします。



9. コスト計画

(1) 概算工事費

	A案 (サブアリーナあり)	B案 (サブアリーナなし)
諏訪公園文化交流ゾーン の場合	4,264,900 千円	3,344,900 千円
延命公園の場合	4,307,900 千円	3,443,900 千円

- ・社会状況などの変化により、建設費等は今後上昇する可能性があります。
- ・公園の再整備費は含みません。
- ・諏訪公園文化交流ゾーンの場合は基礎工事（杭）、延命公園の場合は造成工事を考慮しています。

(2) 維持管理費

ランニングコストについては、規模、内容からみて、現在の体育館よりも、かなりの増加が見込まれます。新しい体育館（床面積 7,200～10,000 m²）の維持管理費（保守点検・清掃・光熱費、人件費は除く）については、空調設備のない今の体育館（床面積 6,000 m²）の維持管理費が 1,500～1,600 万円であることから、面積増及び空調費用の増加等により、かなりの増加が見込まれます。特に空調費用については、類似施設の例をみても、かなり必要となってくると考えられます。

今後の基本・実施設計における詳細設計において、施設の管理・運営方式や体制および空調システムや維持管理の容易な仕上げ材の選定、省エネ方式の導入などにより、できる限りコストが抑えられる計画とします。

10. 検討課題の整理

今後検討すべき課題を下記にまとめました。

- ・ P F I 等民間活力の導入を含めた財源の確保
- ・ ライフサイクルコストの抑制等による維持管理費の軽減
- ・ 複合施設化や広域的な視点での施設整備の可能性
- ・ 市民を広く交えた施設整備の推進体制づくり
- ・ 設備の向上に伴う適正な利用者負担の検討
- ・ 公共施設維持管理計画との調整